

巻頭言

愛媛県立三崎高等学校
校長 和田 俊之

文部科学省からの「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定を受け、平成31年度（令和元年度）より3年間、研究に取り組んでまいりました。本校では、平成27年度より、学校全体として取り組むような体系的なシステムが確立されていなかったものの、地域住民の学校行事への参加や生徒の地方祭等の地域諸行事への参加など、地域との交流活動を積極的に行ってきました。また、週に1時間の総合的な学習の時間を活用し、地域連携活動に取り組むなど、地域活性化事業を「三崎おこし」と名付け、年次進行で取り組んできました。平成28年度には「地域に生き地域とともに歩む高校生育成事業」、平成29年度には「コミュニティースクール推進校」、平成30年度には「地域を担う心豊かな高校生育成事業地域活性化プロジェクト」の指定を愛媛県教育委員会より受け、地域協働活動の研究に取り組んできました。また、平成28年度より、地元伊方町「伊方町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中核事業として設立された「伊方町移住・定住促進協議会」の構成メンバーとして連携活動にも参加するなど、地域とともに積み上げてきた地域協働活動を質・量ともに高め、広げることができました。本事業が開始された令和元年度には「総合的な探究の時間」に「PR班」、「カフェ班」、「商品開発班」、「ツアー班」、「アート班」、「情報・防災班」の6班に分かれて、全学年が同時間にテーマごとに分かれて実施しています。さらに、三崎高校でしかできない学びの幅を広げるため、令和2年度には「未咲輝（みさき）学」という学校設定科目を創設し、学年ごとにテーマを設定して探究活動に取り組んでいます。1年生は地域理解学習、2年生は地域課題の発見と解決、3年生は将来ブーメラン人材（起業方法やビジネスプラン）について学習し、従来の教育課程や教科の枠にとらわれない、「地域の良さを仕事につなげる起業の仕方」や「地域の伝統文化の継承」などについて探究的な活動を行う地域連携型の授業を展開しています。これらの活動によって、今まで以上に地域の方々和三崎高校生のつながりが深まりました。地域の方々からは、「三崎高校の生徒に手伝ってもらってありがたかった。またお願いしたい。」といった声が多く聞こえてくるようになりました。また、生徒の感想では、「地域行事やイベントを通して、地域の方々に笑顔になっていただくことができ、この活動に強くやりがいを感じる事ができた。人前に立って何かをするとき、不安やプレッシャーが勇気や自信に変わり、一歩大人に近づくことができたと感じた。」このように、生徒たちが活動を通して、地域の活性化につながっていることを実感できるとともに、自己肯定感の高まりや自主性・積極性が育まれてきました。現在、従来の「三崎おこし」は「みさこう・せんたんプロジェクト」に名称を変更し、生徒主導、地域ありきの地域協働カリキュラムを今まで以上に充実したものに構築しています。

旧三崎町には、古くから「裂織り」と言われる佐田岬半島の伝統的な織物があります。「裂織り」とは、古木綿を集め、その古木綿を裂いた糸を使って機織り機で織る技法のことです。三崎高校は、地域と生徒、地域と学校、生徒と学校といったそれぞれの結び付きの中で「裂織り」のように、美しい織物になるよう、しっかりと織り合わせていきたいと思えます。三崎高校（みさこう）最高 さあ行こう！生徒と地域を育てる町の拠点として、いつまでも愛される学校を、そして、「み」んなが「さ」いこうに「き」らきら輝ける学校にしていきます。

本報告書は、3年間の研究成果をとりまとめたものです。本報告書を御高覧いただき、御教示いただきたいと存じます。最後になりましたが、3年間の本校の研究に御支援、御指導を賜りました関係者の皆様方に感謝申し上げます。